

目次

次

口 絵 文 序 章

監修の辞 凡 例

の逼迫 借用金 御借上 御借用 中期の藩政 二之丸騒動

二之丸派と三之丸派 新役所とその施政 難波箇条書上 明和一件 二之丸派の施政 安永一件 三之丸派の執政 二之丸派の画策 三之丸派の反撃 二之丸派の処断 騒動の原因

第四節 藩政の改革

家臣団の再編成 千野左近一件と千野隼摩一件 藩財政の窮乏 藩政の改革

第五節 藩体制の崩壊

崩壊期の藩政 崩壊期の世情 米艦の渡来 和宮の降嫁 橋戦争 高松殿と神官 赤報隊 甲州路出兵 越後口出兵 新政府の改革

第一章 高島藩の成立と藩政 第一節 藩体制の確立

藩領の成立 家臣団 知行制度 支配機構の成立 法制の整備 初期の藩政 流人

第二節 藩政の停滞

藩体制の整備 郡中法度 家中法度 藩財政

第二章 村町の成立としくみ

第五節 村役人 一九
人給

第一節 築城と城下町建設 二五

茶臼山城と城下 城の外郭 本丸 城郭と用
水 城下町上諏訪の建設 城下町の形態 城

下町の用水 城下の温泉

第二節 城下町の発達 二三

城下町の範囲 家中の城下町集住 町人の集

住 城下町の発展

第三節 村々の歴史 二五

本村と新田 大和村 角間新田 小和田村

上桑原村 白狐島新田 神戸村 飯島村 赤

沼村 神宮寺村 宮田渡村 上金子村 中金

子村 下金子村 福島村 大熊村 田部村

南真志野村 後山新田 桜平新田 北真志野

村 板沢新田 有賀村 上野新田 観石新田

文出村 小川新田

第四節 町役人と町の機能 二七

内人別

第十節 家族と同族 二〇一

上諏訪町と下桑原村 宿役人と町役人 問
屋・年寄 組頭 繼頭 町役人の選出 町役

家族構成 相続 婚姻養子縁組 同族と祝神

第十一節 生活 三二

住居 借宅・貸家 服飾 食習 家財

第十二節 村の身分と階層 三七

前期の身分階層 自立小農民の成長 村方騒動 驚動の收拾

第三章 宗門改と鉄砲改

第一節 庶民の宗門改 三九

宗門改 宗旨手形 宗門改一札 宗門改帳
宗門改帳と人別帳 宗門五人組帳 宗門御改
井人別五人組帳 宗門送り 宗門改の仕法

第二節 支配階級の宗門改 四〇

宗門一札 武士の宗門一札 武家奉公人の一
札 寺社の宗門一札 宗門送り状・請狀

第三節 子午改 四五

子午改 子午改の仕法

第四節 鉄砲改 五四

鉄砲改と鉄砲數 家中の狩獵 御留野

第四章 檢地と土地制度

第一節 檢地の実施状況 二五

伊奈検地と日根野検地 慶長の検地と毛付改
初期総検地 初期再検地 元禄の高改 享保
の高改 中期再検地 後期再検地 文政の高
改 新切・切次の検地 番直検地 百姓改の
検地

第二節 檢地仕法 二六九

検地の準備 檢地の基準と宛竿 竿入れ 割
引と祝儀畝歩 産米の配分と津 砂引検地

第三節 阿原の検地 二七七

阿原検地 元禄の見出検地 明和の阿原検地
安永の阿原検地

第四節 村高の推移と地域性 二八二

諏訪市域の村高 檢地にみる地域性 村高の
推移

第五節 林検地 二九〇

林検地 山手米・大豆 年季明の措置

第六節 土地制度

三九五

家中名請 家中名請の成立 家中名請地の権利・義務 内付百姓と分付百姓 家中名請の

衰退 水中原野 文出・小川の紛争

第五章 貢租と課役

第一節 蔵入地の貢租

三九

藩財政のしくみ 檢地目録と物成 物成の算出 物成の増徴 当引 正米納 振替による

上納 買上納 徳帳と勘定帳 貢租負担の実態 未進と新組奉公

第二節 紿所の貢租

三七

給所の貢租 地方知行時の貢租 地方知行藏 方直し後の貢租 知行物成通帳 知行と家計

第三節 貢租米の商品化

三六

貢租の商品化 御払米と買上納 正米の配分

正米の払下げ 江戸廻米

第四節 小物成

三八

小物成の系統と種類 艾・菖蒲 麻綿上納

桂葉・ねこ・蓮菜・大根 渋薑・松節

第五節 運上と冥加

三四

運上の系統と種類 冥加金 冥加金と褒賞

第六節 課役と高掛物

三四

御役儀 抜高 抜高役儀高帳 役儀の減免

課役の賦課 追鳥 紿所の課役

第六章 農業と用水

第一節 耕地の拡張

三五

還住政策と新田開発 有賀村の阿原の開発

第二節 農業

三六

稻作 品種 苗代 泥揚げ 本田 施肥 田植え 収穫 畑作

第三節 用水汐

三七

用水汐 新汐の開削 平坦部の汐 竜(埋掘)

第四節 農業経営と小作

三八

藩の小作料政策 小作經營 小作慣行 農業

第五節 農地の移動 三九

永代売り 裏判証文制と年季売り 土地の表
示

第七章 林野

第一節 入会山と紛争 四〇七

国郡境論 入会紛争 片倉山山論 真志野山
山論 原山草論 大沢山山論 神戸後山山論
上桑原山山論 赤渋山山論 大道通り山論
入会慣行

第二節 御林 四一〇

諏訪市域の御林 御林方の役人 管理と植林
藩の用材伐採 採取物の払下げ 御払山

第三節 家中林 四一〇

家中林の成立 拝領地の家中林 紿所の家中
林 入会地の家中林 家中林における採取權
家中林の所有權

第四節 百姓林と村林 空七

百姓林・村林の成立 宝永の林改 その後の

林改 林改と山手 村林の利用 宝暦の新林
潰し 割林

第八章 諏訪湖の漁業

第一節 近世の漁業政策 四五五

中世までの漁業 漁業権と漁場割 高島藩の
猶業改

第二節 漁法と漁具 四七一

漁法の分類 鵜繩 沖引網（付引） 鵜遣い
やつか（屋塙） 水曳 その他の漁具 諏訪湖
の船

第三節 河川漁業 四八四

湖辺の村の河川漁業 魚族保護と河川漁業

第四節 漁業税 四八六

漁業税の種類 明海年貢 個人の運上 水曳
運上 賦役的現物納

第五節 漁獲高と市場 四八三

明海漁業の水揚量 水曳漁業の水揚量 問屋
役運上と魚問屋場 高島藩主の湖魚利用

第九章 諸産業の発展

第一節 酿造業	吾一
酒造業 烧酎、醤油	
第二節 鑄物師と鍛冶	五〇
鑄物師職 大鍋屋小島氏の来住 小島氏の鋳 造物 郡内の鋳掛職支配 鍛冶職（鋸鍛冶）	
藤井甚九郎の来住 鋸鍛冶の發展	
第三節 綿打ちと小倉織	五六
綿打ち 綿打ちの發展 運上と規制 小倉織	
第四節 蚕糸業	三七
養蚕の始まり 糸蛹運上 小坂桑 桑苗の交 付（養蚕の奨励）蚕種業の發展 蚕飼の狀況 登せ糸 生糸と出釜 生糸の取引 開港と生 糸 藩の統制	
第五節 大工と太子講	五九
御作事屋と大工棟梁 太子講 大隅流と立川 流の対立 舟大工	

第六節 諸職と職人

諸職と職人 水車屋 紺屋 豆腐屋 油絞り と油屋 諸職人	吾五
---------------------------------	----

第七節 出稼と奉公人

武家奉公 出稼の制限 年季稼と半季稼 奉 公と給与	吾四
------------------------------	----

第十章 商品經濟の發展

第一節 城下町商業の發達	吾三
城下町商人の發展 中町・上町と桑原町の紛 争 中町・上町・桑原町と角間町・清水町の紛 争	
第二節 問屋制度の發展	吾七
塩・肴・雜穀問屋の動向 諸問屋設置と在郷商 人統制 問屋と中馬	
第三節 町と在の商業紛争	吾三
在郷商人の統制 文化十二年の再触 在郷商 人統制の強化と寒態	

第四節 中馬との紛争 壱六

中馬塙の直買停止 荷扱いの合理化 問屋と
荷主の紛争

第五節 物産会所の設置と諸問屋の停止 壱三

物産会所の設置 諸問屋の停止

第六節 在郷商人の発展 壱五

在郷商人の発展 城下町商人の反対 振り売
りの活動

第七節 商人の実態 壱三

城下町の商業 城下町と在町の職業の状況

第十一章 交通・運輸の発達

第一節 街道の整備 六三

中山道の成立 甲州道中の成立 一里塚

第二節 上諏訪宿 六五

上諏訪宿の成立 宿高江加高 伝馬役と伝馬
屋敷 問屋場と宿役人 問屋 年寄 本陣と
旅籠屋 高札場 宿の助成 宿の財政

第三節 伝馬役と助郷役 六三

伝馬役と助郷 御定人馬と御定賃錢 先触
伝馬の負担 伝馬請負 伝馬平均

第四節 脇往還と生活の道 六六

有賀峠 大門峠 伊那道 脇道と宿駅の紛争
村々の道

第五節 旅人 六四

大名の通行 著名人の通行 庶民の旅 浪花

講 行路病者 行倒人

第六節 中馬稼の発達 六八

中馬の発生と展開 かがり荷と附出銭出入り
寛保の和融 宝曆の紛争と明和の裁許状 中
馬札と中馬運上 中馬仲間と中馬惣代 中馬
稼の実態

第十二章 災害と対策

第一節 飢饉 六五

延宝・享保の飢饉 天明の飢饉 天保の飢饉

目 次

(一四)

第二節 救荒対策 七一

大蔵匂糲 三手御藏米 村々匂糲 常盈倉
穀留番所 投げ込み

第三節 風水害とその対策 七八

諏訪湖の氾濫 尾尻の切広め 浜中島の撤去
弁天島の撤去 枝払い・川浚い 河川の改修
構川・構土手 渋抜川 取瀧川 新川掘替
水防体制 通船の阻止

第四節 火災と防火体制 九四

主な火災 火災に対する対策 火災に対する
処罰 火事見舞

第五節 地震・疾病 七三

湖岸の冲積地 地震災害 地震災害に対する
対策と見舞 疾病

第十三章 教育と文化

第一節 藩 学 七五

長善館の創立 長善館の教育 皇学校の設立

第二節 心学舎と寺子屋 七九

寛柔舎 寺子屋 筆塚

第三節 国 学 七七

松沢義章 飯田武郷 石城東山

第四節 和 七〇

後藤信重 伊藤定太

第五節 医 師 七三

藩医井手家 竹内新八 接骨医立木家

第六節 詩 文 七六

諏訪忠晴 諏訪忠林

第七節 和歌と俳諧 七九

和歌 德元と諏訪の俳諧 諏訪闇幽 河合曾
良 河西周徳と点取俳諧 藤森素葉 岩波其
残

第八節 美 術 七九

天竜道人 岩本琴斎 溝口永明 三井親和

第九節 建築と彫刻

七五三

大隅流の工匠 立川流の工匠 上社の建築

泉寺（中金子） 永久寺（田辺） 善光寺（南真
志野） 龍雲寺（南真志野） 極楽寺（文出）
江音寺（有賀）

第十四章 宗教と信仰

第三節 貞松院

草創 松平忠輝と貞松院 朱印領とその支配

六七

第一節 神社

七三

先宮社（大和） 手長社（下桑原） 八剣社（小

和田） 足長社（上桑原） 神戸神社（神戸）

子ノ社（赤沼） 神明宮（飯島） 御社宮司社

（上金子） 八龍社（中金子） 八幡社（下金子）

御社宮司社（福島） 御頭御社宮司社（大熊）

御頭御社宮司社（田辺） 習焼社（南真志野）

蓼宮社（北真志野） 山神社（後山） 八剣社

（文出） 三輪社（小川） 千鹿頭社（有賀） 八

幡社（上野）

第二節 寺院

七四

寿量院（大和） 甲立寺（下桑原） 温泉寺（下

桑原） 地藏寺（下桑原） 高国寺（下桑原）

法光寺（下桑原） 正願寺（下桑原） 阿弥陀寺

（下桑原） 教念寺（下桑原） 仏法寺（上桑原）

万福寺（上桑原） 賴重院（神戸） 称故院（飯

島） 法華寺（神宮寺） 金乗院（上金子） 小

第十五章 諏訪神社

第一節 神領の成立

八七

社家の成立 諏訪頼水の宛行 朱印領の成立

高島藩主の寄進

第二節 神官・社人 八四

神官・社人の知行 御頭御符料 賽錢の配分
名請地 名乗・神鋤免許

第三節 神領の検地 八六

検地の実施状況 神領の検地仕法 神宮寺村
の検地 神宮寺村検地の実態 神領への配分

第四節 神領の貢租・課役 八三

検地目録と割目録 小地頭への配分 貢租の
収納 神領の小物成 神領の運上 高島藩の
課役 御造営の課役 小地頭に対する役儀

第五節 神領の支配 八四

神領と藩領 神領の財政

第六節 神事祭礼 八五

蛙狩神事 田遊神事 蓼日鳴弦の神事 上社
御射山祭 上社十五夜相撲

第七節 御頭郷 八六

御頭 御頭の差し定め 御頭の奉仕 野出神

事 御頭祭(酉の祭) 御頭入用と負担 御頭
席論 御頭郷の変遷

第八節 御造営(御柱祭) 八六

御造営(御柱祭) 御柱の伐採 御柱の曳行
騎馬行列 御柱祭と神宮寺村 御柱祭と物忌
み 御柱と御柱の意義

第九節 社殿の造営 八三

神楽殿等の改築と太々講 四脚門と布橋幣
拝殿の再建と年参講

第十節 御師の廻檀 八〇

上社の御師 神長官の御師 福宣太夫の御師
権祝の御師 榛祝の御師 御符料の過怠

第十一節 社寺の紛争 八七

蓮池院と社家の対立 大祝と五官との対立
神葬祭 社寺の席順対立

第十二節 神仏分離 八八

上社の廢仏毀釈 社僧の復飾令 神仏分離令
鑑察使の督励 堂塔の破却

口絵解説

用語解説

参考文献

史料

史料目次

年表

諏訪市史編纂委員会名簿

表目次

図版目次

写真目次

口絵目次

索引

あとがき

『諏訪市史』中巻執筆者名簿